

石川・大町ゴンジヨガリ遺跡

おおまち

1 所在地 石川県羽咋市大町

2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 四月～二〇〇一年二月

3 発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 田村昌宏・北 康典

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 古墳時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大町ゴンジヨガリ遺跡は、碇石ヶ峰山地から流れる地獄谷川によって形成された扇状地上に立地する。調査の結果、古墳時代から中世にかけての複合遺跡であることが判明した。

中世の遺構は、一四世紀後半から一五世紀にかけての掘立柱建物・井戸・土坑などを確認している。掘立柱建物は一定の区域に集中しており、同じ場所でも何回も建て替えが行なわれている。



(氷見)

る。井戸は一三基確認されており、井戸側は石組と曲物のセットとなるもの、曲物のみのものの二種類が見られた。

木簡は、井戸SE二から一点、土坑SK四一から四点、計五点出土した。

8 木簡の釈文・内容

井戸SE二

(1) □□□□□□
(161)×35×4 051

土坑SK四一

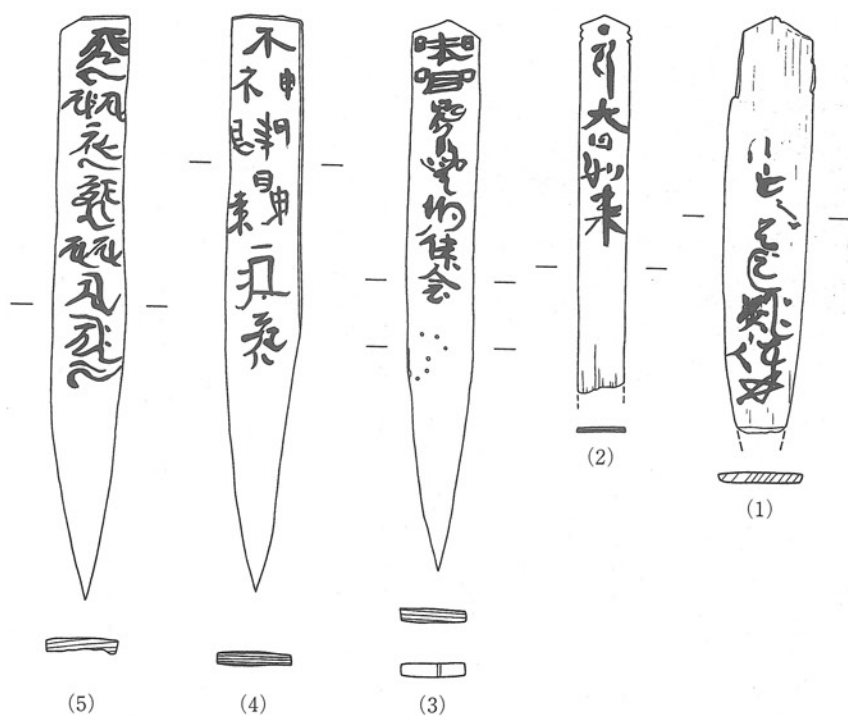
(2) (バン) 大日如来
(150)×20×2 061

(3) (符籙) □□□□律令
[鬼急々如カ]
219×27×7 051

(4) 「不神□日神□□」
229×30×6 051

(5) □□□□□□□□
228×28×7 051

(1)は圭頭を呈し、下端は欠損しているが、尖っていたとみられる。確認できる六文字はすべて梵字であろうか。(2)は圭頭で、左右に二カ所ずつの切り込みがある。(3)は圭頭を呈し、下端を尖らせる。下部にある七つの穿孔は、北斗七星を意図したものか。(4)は頭部が平らで、下端は尖っている。(5)は梵字とみられる文字が七文字認めら



れるが、かなり崩れた字形で、釈読できない。これらの木簡は、共
伴遺物からみて、いずれも一四世紀のものと考えられる。

9 関係文献

(財)石川県埋蔵文化財センター『大町ゴンジヨガリ遺跡』(石川県埋
蔵文化財情報六、二〇〇一年)

(柿田祐司)